

本資料は、『松本喜美子資料』の中核である

—FELの実態資料と神奈川の新教育の

実践資料を中心に編纂したものである。

戦後の新教育・教育指導者再教育の実像解明の

ための礎となることを期待する。

緑蔭書房

佐藤広美編・解説

資料 日本 の 戦 後 教 育 改 革

松本喜美子資料

全5巻



編纂にあたって

佐藤広美「東京家政学院大学助教」

わが国における戦後教育改革研究は、連合国側の資料公開と国内整備に伴って、近年めざましい進歩を遂げている。次々と出版される大部の著作、分野別の各個別研究の集積、そして教育刷新委員会・審議会議事録などの基本資料の復刻が行われてきている。

しかし研究の重点は、なお改革直後の時期にとどまっている。戦後教育改革の理念・政策・制度にかかわるものを中心であり、それに比べ教育内容や方法面における研究は立ち後れているのが現状である。とくに、連合国軍がもたらした新教育とはいかなる内容であったのか、そしてその理論と方法が各地域でいかに受容されたのか(あるいはされなかったのか)、そのプロセスの解明は不十分である。

『資料 日本戦後教育改革—松本喜美子資料』は、この課題に応える資料集である。

本資料集は、戦後すぐに神奈川県立公文書館所蔵『松本喜美子資料』を編集して収載したものである。I F E L・G H Q教育指導編(1巻・2巻)には、氏が一九四九年に参加したI F E L(教育指導者講習)の関連資料を収めた。I F E Lは、連合国軍司令部の民間教育情報局(C I & E)が教職員の再教育のためにおこなった改革期最大の講習会である。新教育指導編(3巻・5巻)には、神奈川県を中心とする教育指導者教育の実際を知る関連資料を収めた。収録範囲は戦後の一九五〇年までとした。

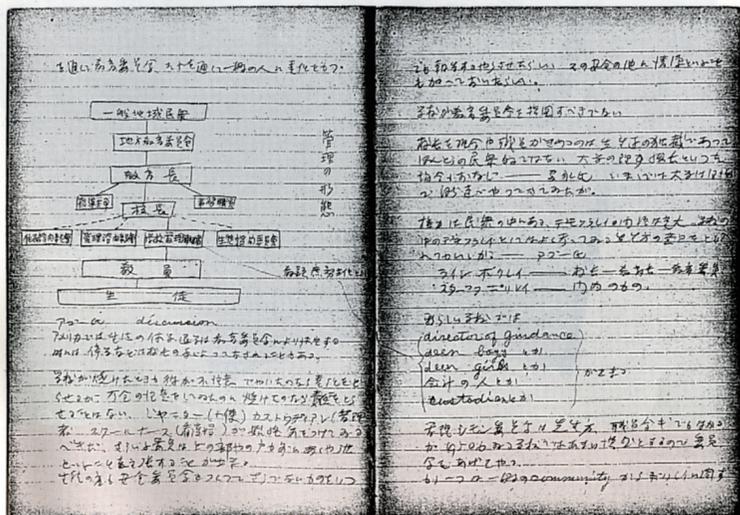
戦前教育を反省し、新しい教育理念を具体化し実践していくのは現場にいる教師以外にありえなかった。その意味で、新教育の普及は教育指導者の再教育の出来如何にかかっていた。本資料集の最大の特質は、この点の解明に資するところにある。

I F E Lについては、その実際の内容の解明は遅れており、研究はやつとその緒についたばかりである。I F E L・G H Q教育指導編に収載された『指導主事講習会記録』や松本氏筆記の『講習記』などによって、私たちは連合軍総司令部が強調し伝えようとした新教育とはどのようなものであったのか、そして日本の教師たちはそれをいかに受けとめようとしたのかを知ることができる。

新教育指導編の神奈川県を中心とした新教育指導関連資料は、C I & Eの指導の下、新教育の内容と方法を文部省と県教育委員会がいかに受けとめ具体化しようとしたのか、そしてその実際の普及を担った指導主事の理念と実践の記録である。戦後教育行政の基本理念は、指導・助言・援助であると説明される。一九五〇年代半ばまでの旧教育委員会法の下における、その指導助言行政の実態を探るうえで興味深い資料となるだろう。さらに学校訪問、各種指導者研究会・同協議会、家庭科など各種ワークショップのほか、当時推進された「実験学校」の様子、「経験のカリキュラム」編成の実際、各学校における教員再教育計画、などが収められている。

本資料集は、戦後教育改革について日本独自の意義と特質をさぐるために欠かせない日本教育史・地方教育史における重要な研究資料の一つとなる。

『中等指導主事講習記(1)~(5)』(第1巻に収録)



『中等学校の学習指導』(第2巻に収録)



教育指導者再教育の 解明に不可欠の I F E L の資料を 多数収録！

『新教育研究報告書 第一巻(第一巻に収録)』



『関東地区中等学校生徒指導協議会研究集録(第5巻に収録)』

昭和二十五年十二月二十七日

関東地区
中等学校

生徒指導協議会研究集録

①

神奈川県教育委員会

新教育の普及を担った 教育主事の実践記録を 多数収録！

推薦します

戦後教育改革の実像解明 に大きな手がかり

鈴木英一 [名古屋大学名誉教授]

戦後教育改革から半世紀を経た今日こそ、その壮大な全体像を歴史研究として科学的実証的に解明すべき時期である。その際、占領軍や文部省など中央の動向はもとより重要であるが、それが地方段階でどのように肉付けされたか、地域と学校における実施過程の具体的な考察が不可欠である。

今回刊行される本書は、貴重な地方教育史史料の典型ともいえる『松本喜美子資料』の中核を収録したものであり、この期待に応えるものとなっている。

松本資料は、改革実施期、神奈川県で教育委員会主事や学校長を歴任された松本喜美子氏が丹念に収集されたコレクションであるが、本書にも収録されている松本氏の手書きの記録ノートを見ると、当時の教育者の意気込みや苦闘を含め、教育改革そのものの息吹きや鼓動が生々しく伝わってくる。

このように、本書は、教育指導者再教育のIFEL資料をはじめ、昭和二〇年代から三〇年代初めにかけての戦後教育改革実施期における各種の解説書、報告書、会議記録など珠玉の史料を満載したものであり、戦後教育改革の実像解明への大きな手がかりを提供している。

推薦します

教育民主化の実態を

本書の構成と収録した史料（抜粋）

第1巻

—IFEL・GHQ教育指導編I—

- 教育講習報告書〔文部省〕
- 第二期教育長・教育主事講習会記録
- 昭和23年度教育長・教育主事講習会終了者名簿〔文部省教育長等講習実施本部〕
- 中等指導主事講習記(一)～(五)〔松本喜美子記〕
- 新教育研究報告書 第1巻〔第1回中等指導主事講習会編集委員〕

第2巻

—IFEL・GHQ教育指導編II—

- 中等指導主事講習会資料
- 中等学校における指導〔ARNOLD ARGO、小見山栄一〕
- 中等学校の学習指導〔ドクター・ベッカム、梅根悟〕
- 青年期の要求と問題の研究
- 民主主義教育社会的作用
- GHQ教育指導資料
- デモクラシーの意義
- 民主主義団体の会則
- 教師の自己評価
- 教師の自己評価採点
- 新制中学に於ける教員講習に対する試案
- 合衆国に於ける州並に地方教育聯盟
- 地方教育委員会
- 学級視察票
- 生徒に質問をする場合の心得
- ホームルーム制度
- 教科中心カリキュラムと経験カリキュラムの差
- 社会科巻一についての指導課題一覧表

解明する資料

高橋寛人 [横浜市立大学助教]

占領下の一九四八年秋より、CIEは教育民主化政策の一環として、日本各地の教育界のリーダーを対象とする講習会を開始した。IFEL(アイフェル)である。IFELは各回とも、主に六週間ないし一二週間という長期間にわたるものであったが、敗戦直後の財政逼迫、教員不足の中、一九五二年春までに八回開催された(占領終結後にCIEとは無関係に第九期が開かれた)。日本人講師のほか、米国から招いた教育学者や教育実務家が講師を務め、アメリカ流の民主主義教育、新教育を伝えた。本書には、第二回の中等学校指導主事講習に参加した松本喜美子氏が筆記した五冊の講習ノートをはじめ、IFELの諸資料が収録されている。

戦後の教育民主化の実態は、中央における改革政策を追うだけだとは明らかにされ得ない。教育現場で、「新教育」はいかに受容されたのか、拒絶されたのか、あるいはそこにとどのような屈折があったのか、が解明される必要がある。この点で、当時中央と地方をつなぐ役割を担った指導主事の活動が注目される。松本喜美子氏は、その後一〇年以上神奈川県指導主事を務めた関係で、学校訪問の記録、教員再教育などに関する県の資料のほか、全国的規模で行われた研究会(ワークショップ)や研究協議会の記録を多数保存されていた。本書にはそれらの中の主なものが含まれている。

ところで、『CIE文書』『トレーナー文書』をはじめアメリカ側の資料の多くが公開され、関係者の尽力の結果、今日では日本国内でも閲覧が可能となった。文部省関係の資料も『戦後教育資料』、『辻田力文書』その他の文書、教育刷新委員会の議事録など、やはり労多き収集・整理作業のおかげで、重要資料を利用できるようになった。今後は、地方の教育資料、教員個人との関係資料の発掘・整理が求められる。本書がそのような作業を触発し、類書が続々と刊行されることを期待する。

指導主事講習者参観用教案「桜田小学校」
アメリカ合衆国に於ける学生自治団体
生徒自治会「昭和23年9月青森軍政府教育情報部」
民主的な県下生徒自治連合協議会及び地区協議会の組織(試案)
生徒協議会活動の機能分類
両親と教師の会「仮称育友会」規約及付則「軍政府民間情報教育課」
アメリカに於けるPTAについて
実験的「両親と教師の会」(PTA)の資格要件
中学校・高等学校指導主事の職務「文部省」

第3巻

新教育指導編Ⅰ

『学校訪問録』『学校訪問録』[神奈川県]
昭和24年5月起『学校訪問録』(中高) [指導主事室]
昭和25年度『学校訪問録』(小学校部) [指導主事室]
昭和25年度『学校訪問録』(中等学校部) [指導主事室]
昭和27年度『学校訪問録』 [指導主事室]
指導主事会議録 [神奈川県]
昭和29年度指導主事会議録
昭和30年度指導主事会議録

第4巻

新教育指導編Ⅱ

新教育実施資料(神奈川県を中心に)
学習指導要領に対する中学校教師の意見の調査(一般篇) [文部省]
校内に於ける教員再教育計画(第一期) [真鶴中学校]
校内に於ける教員再教育計画 [共和中学校]
校内に於ける教員計画 [山北中学校]
我が校に於ける教員再教育計画 [川崎市立住吉中学校]
校内に於ける教育計画(4月〜8月) [川崎市立富士見中学校]
川崎新制中学校職業科の先生に対する講演

推薦します

戦後教育改革の初心を語る資料

寺崎昌男 [立教大学教授]

アイフェル（I F E L）——インタビューをする中で、この言葉を幾度聞いたことだろうか。数多くの戦後教育改革当時の体験者の口から、さまざまなニュアンスでこの語が出た。「教育指導者講習」という日本語名称よりは英語のアイフェルという略称がはるかに馴染みが深いらしく、ある時には占領下の惨めな再教育の思い出として、しかしより多くは戦後新教育への自覚を促された思い出として、この言葉を聞かされた。故・海後宗臣東大名誉教授を編者とする『教員養成』（叢書戦後日本の教育改革、第八巻、一九七二）執筆のとき、この講習会を初めて戦後史のなかに位置付けることにし、あらためて資料集めに奔走したのを、昨日のことに思い出す。

今回復刻される「松本喜美子資料」はこのアイフェルを中心とし、さらに当時神奈川県下で行われた再講習の、受講者の立場からの資料の復元である。新しく開けた教育世界への教育指導者の開眼と伝達された情報の実態とを語る極めて詳細忠実な記録が提示される。用紙難の時代であった。もともとこの時代の史料は「崩落」の危機に瀕している。この企画によって、戦後教育史の初心を語る資料が保存され共有されることをよろこんで、ここに推薦する。

第5巻

新教育指導編Ⅲ

- 協議会・研究会資料「神奈川県・関東地区」
- 中等学校研究会の手引「文部省・関東地区企画委員会」
- 関東地区中等学校生徒指導研究協議会実施要項「神奈川県教育委員会」
- 関東地区中等学校生徒指導協議会研究集録「神奈川県教育委員会」
- 幼稚園教育課程研究協議会「文部省・静岡県」
- 関東地区中等教育研究会研究成果の集録「神奈川県教育委員会」
- 関東甲信越静地区研究会中等教育の改善「千葉県」
- 地域的な研究団体及び研究グループ「神奈川県」
- 新制中学生徒が何故質問をしないかの調査「足柄下郡吉浜中学校」
- 個人時間割の作り方「吉浜中学校」
- 神奈川県立横浜幼稚園PTA規約
- 教育方途の再検討「中郡成瀬小学校」
- 本校カリキュラムの実態「足柄上郡福沢小学校」
- 第4回教育研究協議会記録——新教育の批判と反省「神奈川県教育研究所」
- 昭和24・25年度教育計画
- 神奈川県公立学校教育目標（試案）
- 昭和27年度「小学校研究集録」（実験学校研究報告）「神奈川県教育庁指導部編」
- 中学校教育課程試案「神奈川県教育委員会」
- 家庭科・職業教育資料
- 新制高等学校家庭科家庭実習の手引「文部省」
- ホーム・プロジェクトに関する調査「文部省」
- 宇都宮ワークシヨップ記録「松本喜美子記」
- 竹原分校職業指導主事会「松本喜美子記」
- 男女共学家庭科課程「都立白鷗高等学校」
- 高等学校における男女共学家庭科実施後の中間報告
- 神奈川県中等学校ホームプロジェクト集
- 普通課題における家庭科実施状況調査

戦後教育の足跡を知る ための格好の資料

永野勝康

〔神奈川県衛生短期大学助教授〕

敗戦後、すでに五〇年以上が経過しています。わが国の戦後改革の一つである教育の軌跡を振り返る絶好の機会であるこの期に、『資料 日本の戦後教育改革―松本喜美子資料―』の刊行は、まことに時期を得た良い企画だと思います。

いくつかある教育改革の中に家庭科・指導主事の新設があったわけですが、それらをいち早く体験された松本喜美子さんの文書を中心の資料集です。松本喜美子さんは、神奈川県の高等女学校の教員から昭和二三年四月、選ばれて新制の学校教育のあり方を勉強するため教育講習会（IFEL）に参加しました。また、神奈川県の初めての家庭科の指導主事となりました。占領下の当時、神奈川県では、軍政部民間教育課長にマックマナス氏が就任していて、マックマナス旋風などと呼ばれ神奈川県教育界にある種の衝撃を与えていました。しかし、松本喜美子さんはマックマナスから信頼を得ていました。

昭和二六年には、ガリオア資金でアメリカに行き、家庭科教育について研修を受けています。帰国後、神奈川県内の家庭科教育研究会を組織しその中心者となり、全国的にも家庭科教育の第一人者になります。それらの体験の中で収集した資料や記録のノート、などの資料により構成した資料集です。

家庭科とは、指導主事とは、戦後の民主教育とは何か等一教員の体験の中から生まれた資料が、一つの答えを出していると思います。ここに、日の目を見ることになり、戦後教育の足跡を知るための格好の資料だと思い、推薦を致します。

本書の特色

1 戦後教育改革研究の欠如を埋める資料！

教育指導者再教育の解明に不可欠のIFELの資料を多数収録。とくに受講者自身による講習記録は、講義内容のほかディスカッションや質疑応答にまで及んでおり、講習会の実際やGHQの新教育の内容を知る上で大変貴重な資料。またGHQ民間情報教育局が配布した種々の新教育指導資料も教育民主化のねらいや内容がわかり貴重である。

2 戦後初期の地方教育改革史の重要資料！

新教育の普及を担った教育主事の実践記録を多数収録。『指導主事会議録』や『学校訪問録』は、新教育の下での主事の役割と指導がいかなるもので、どの様な課題、問題をかかえていたのか、その細部を知ることができる。さらに、神奈川県を中心とする新教育実施資料、協議会・研究会資料など各地域と学校における実態の考察に不可欠の資料を満載。

佐藤広美編・解説

資料 日本の戦後教育改革

松本喜美子資料

全5巻

本書は、教育指導者再教育のI・F・E・L資料をはじめ、昭和二〇年代から三〇年代初めの戦後教育改革実施期における各種の解説書、報告書、会議記録など珠玉の史料を満載。戦後教育の足跡を知るための基礎文献である。

〈本書の構成〉

- 第1巻 I・F・E・L・G・H・Q教育指導編Ⅰ 360頁
- 第2巻 I・F・E・L・G・H・Q教育指導編Ⅱ 350頁
- 第3巻 新教育指導編Ⅰ 400頁
- 第4巻 新教育指導編Ⅱ 450頁
- 第5巻 新教育指導編Ⅲ 460頁

※解説「佐藤広美」は第5巻の巻末に入ります。

〈体裁〉

B5判・上製クロス装・約2,020頁・ケース入り

〈定価〉

本体価格100,000円＋税

ISBN4-89774-502-0 C3037 ¥100000E

〈推薦〉

- 鈴木英一「名古屋大学名誉教授」
- 高橋寛人「横浜市立大学助教授」
- 寺崎昌男「立教大学教授」
- 永野勝康「神奈川県衛生短期大学助教授」

関連図書のご案内

佐藤広美・高橋智編

戦前教育科学運動史料

戦前の民間教育研究運動の最後の抛り所となった教育科学研究会の機関誌『教育科学研究』と山下徳治編集の『教材と児童学研究』を収録した。総力戦体制下の民間教育運動の課題、状況を知る第一級の史料。待望の復刻である。

〈本書の構成〉

- 1・『教育科学研究』昭和14年9月↓16年4月刊(全17冊)
 - ・ 解題(佐藤広美) 総目次 著者名索引
- 2・『教材と児童学研究』昭和9年5月↓同年8月刊(全4冊)
 - ・ 解題(高橋 智) 総目次 著者名索引
 - ・ 戦前教育科学運動関係研究文献目録

〈体裁〉

A5判・上製クロス装・総960頁・ケース入り

〈定価〉

本体価格20,000円＋税

ISBN4-89774-501-2 C3037 ¥32000E

〈推薦〉

- 海老原治善「北京大学客座教授」
- 中内 敏夫「中京大学教授」
- 波多野完治「お茶の水女子大学名誉教授」
- 山住 正巳「東京都立大学総長」



緑蔭書房

東京都板橋区板橋1-13-1 ☎03(3579)5444

お申し込みは下記取扱い書店へ